

## 東急文化会館「渋谷パンテオン」を飾ったル・コルビュジェの大綴帳を 渋谷ヒカリエのシンボルとして、1 / 5 サイズで東急シアターオーブに再現

東京急行電鉄株式会社



当社は、渋谷駅直結の高層複合施設「渋谷ヒカリエ」の中核施設であり、7月18日(水)に開業を迎える「東急シアターオーブ」に、旧東急文化会館(1956年開業)の映画館「渋谷パンテオン」に掛けられていた近代建築の巨匠ル・コルビュジェの綴帳を、当時と同じ西陣織の技法で1 / 5サイズに縮小し、センターホワイエに設置、公開します。

「渋谷パンテオン」を飾った大綴帳は、当社初代会長である五島慶太に設計を任された建築家・坂倉準三氏が、師であるル・コルビュジェ氏にデザインを依頼したものです。同氏の原画をもとに、日本の伝統技法である西陣織で製作されました。

文化の伝統・伝承を大切にしながらも、現代の建築にマッチさせ、作品の魅力を最大限に再現しようという製作方針をコルビュジェ財団と共有し、当時の大綴帳の製作も手がけた株式会社川島織物セルコンの伝統工芸師が中心となり、分析から製作まで、緻密な作業を繰り返しました。

当時の製作に関わったさまざまな人たちの思いと、文化の発信地として、戦後から現代まで常に新しいカルチャーを発信し続けてきた「東急文化会館」のDNAを、渋谷ヒカリエへ受け継いでいきます。

「東急文化会館」のDNAの象徴として再現される本作品の詳細は、別紙の通りです。

以上

【別紙】

ル・コルビュジェの緞帳(再現)

大きさ:縦4.8m、横2m(大緞帳の1/5)

素材:経糸 綿、緯糸 レーヨン

製法:西陣綴織

製作:株式会社川島織物セルコン

設置場所:東急シアターオーブ13階 センターホワイエ



以上